

「人」が輝き、
「まち」が輝く
「輝く創造都市、高松」



大西さとし

市政レポート

令和4年 第3回 5月臨時会
第4回 6月定例会

HPやFacebookでも情報発信中!!

連絡先

〒760-0080 高松市木太町1849-1-602
TEL 090-8696-1730



←HP
Facebook→



Report 報告 1

令和4年第3回臨時会は、5月30日・31日の2日間、第4回定例会は、6月10日から27日の18日間の日程で開催しました。第3回臨時会では、令和4年度一般会計補正予算1件を可決しました。第4回定例会では、令和4年度一般会計予算など22議案を可決・同意したほか、議員提出議案のうち2件を可決、2件を否決とし、陳情2件を不採択としました。また、私自身、第4回定例会において一般質問を行い行政の考えを質しました。

6月定例会(抜粋) 質問および答弁の概要

子育て支援について

Q 保育施設における「待機児童」発生要因と、解消に向けた今後の取組

A 待機児童が多く発生している多肥校区や林校区が含まれる中部地区において、保育施設の募集を行い今年度から新たに、5つの小規模保育事業所が開設され、約100人の定員が確保された。

しかしながら依然として中部地区における1、2歳児を中心に、待機児童が発生している状況である。

要因は、共働き世帯の増加などにより、「第2期高松市子ども・子育て支援推進計画」に定めた必要利用定員を上回る利用申し込みがあつたことに加え、1、2歳児の区分において、確保数の不足が生じたことにより、特定区域における需給バランスが不均衡となつたことが影響している。

解消に向けた取組については、これまで整備が必要な地区を限定して、保育施設の募集を行うなど保育ニーズに沿った対策に努めており、今後においても、今年度が推進計画の中間見直しの時期となつてることから、改めて、教育・保育の必要利用定員等の検証を行い、早期の解消を目指していく。

Q 保育施設の「使用済みおむつ」の持ち帰りを取りやめ、保護者および保育士の負担軽減を図る考え

A 本市では、家庭における児童の体調管理の観点等から、保護者の方に使用済みおむつの持ち帰りをお願いしている。

しかしながら、保護者にとっては、おむつを持ち帰り家庭で処分しなければならず、保育士にとっては、おむつを児童ごとに分別し、各保護者にお渡しする必要があることから、保護者保育士双方にとって負担がかかっている。

一方、保育ニーズの増大や多様化により、使用済みおむつを施設内で処分する自治体が増加している。

子育て家庭や保育現場での負担軽減を図るため、今後、保育施設において使用済みおむつを処分する方向で、課題等への対応を検討する。

Q 放課後児童クラブについて、「待機児童」が解消できていない要因及び今後の確保策

A 本市は、「第2期高松市子ども・子育て支援推進計画」に基づき、学校の余裕教室を活用した公立クラブの整備や、民間事業者の参入促進など、受皿の確保に取組んでいる。

しかしながら、本年5月1日現在の待機児童数は昨年比で51人多い、161人であり待機児童の解消には至っていない。

要因は、利用希望児童が特定の校区に偏在する傾向が強まっており、需給バランスの不均衡が発生しているほか、放課後児童支援員等の人材不足により、クラブが開室できないことなどである。

今後において、クラブ運営に関する補制度や地域別の待機児童数を積極的に周知し、複数校区から受入れが可能な、民間事業者の参入を促進するとともに、SNSの活用による、更なる支援員の確保に努める。

瀬戸内国際芸術祭2022について

Q コロナ禍により、多くの行事が中止や延期となった児童生徒に、「瀬戸内国際芸術祭」を体験する機会を提供する考え

A 各学校では、校外学習や修学旅行などの学校行事について、実施時期や方法について慎重に検討しているところである。

このような中、瀬戸内国際芸術祭2022春会期において、サンポート高松周辺を校外学習で訪れ、アート作品に触れる機会も持つことができた学校があると聞いている。

本芸術祭は、アート作品を楽しみながら里海を巡ることで、その背景にある島の生活や歴史を知り、島の魅力を発見するなど、学校の中だけでは体験できない活動や学習ができ、教育現場において一定の意義があると認識している。

教育委員会としては、児童生徒が瀬戸内国際芸術祭を通して、ふるさとの魅力に気付くことができるよう、市長部局などと連携し、各学校への情報提供を行っていく。

教育について

Q コロナ禍での学級閉鎖等における「情報通信技術(ICT)」の活用による成果と課題

A 本市の小・中学校では、学級閉鎖や長期入院等で登校できない場合、一人一台端末を家庭に持ち帰り、「A1型ドリル」、「学習支援ツール」、「ビデオ会議システム」の三つのツールを組み合わせたオンラインによる学習支援を実施している。

成果は、児童生徒の実態に合わせた学習課題の配信による個別最適な学びの継続や、ビデオ会議システムによるオンライン学習において、教員や友達とつながることによる児童生徒の不安感の解消などがある。

課題は、教員のICT活用能力に個人差があり、オンライン学習の内容にも差が生じていることなどである。

教育委員会としては、計画的に研修を行うなど、教員のICT活用能力の向上に努める。

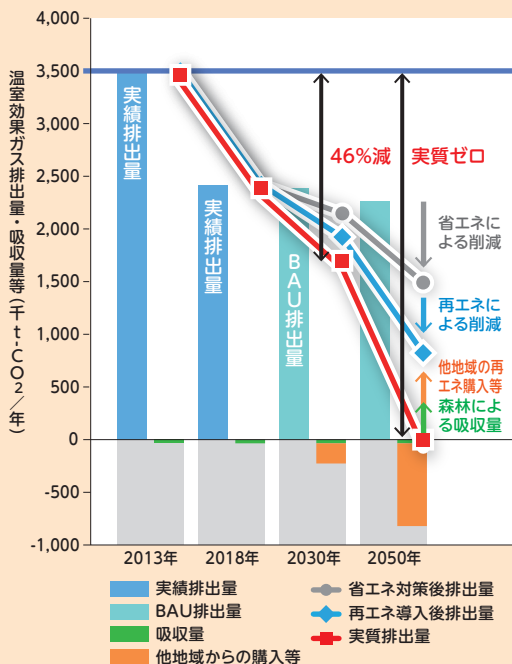


高松市地域再生エネ導入戦略が策定されました

本市では、地域における再生可能エネルギーの導入ポテンシャル及び将来のエネルギー消費量などを踏まえた再生エネの導入目標や、目標の実現に向けての具体的取組等を取りまとめ、令和4（2022）年3月、新たに「高松市地域再生エネ導入戦略」を策定しました。

本戦略では、本市の特徴である豊富な日射量の「太陽エネルギー」を最大限に活用できるように、市民・事業者・本市行政など、多様な主体の連携により、再生エネ導入の仕組みを構築し、ゼロカーボンシティの実現を目指しています。

本市の温室効果ガス排出量の将来推計（脱炭素BAUシナリオ）



脱炭素シナリオにおける温室効果ガス排出量推計結果	温室効果ガス排出量等 (千t-CO ₂ /年)			
	2013年	2018年	2030年	2050年
排出量実績値	3,544	2,453	-	-
BAUシナリオ排出量	-	-	2,416	2,291
省エネ対策後排出量※1	-	-	2,159	1,511
再生エネ導入後排出量※2	-	-	1,930	832
森林吸収源対策※3	-36	-36	-36	-36
他地域からの再生エネ購入等・水素等購入※4	-	-	0	-796
実質排出量	3,508	2,417	1,895	0
2013年比削減量	-	31%	46%	100%

小数点以下の端数により合計が一致しない場合があります。
 ※2：2030年、2050年の市内再生エネ以外の電力CO₂の排出係数を2018年と同値として試算しています。実際には、高松市同様に日本全国で再生エネ導入が進むため「再生エネ導入後排出量」はさらに下がることが予想されますが、ここでは高松市内での取組効果を示すため2018年の排出係数を使用し、他地域からの再生エネ調達で相殺する形で示しています。

- 国のエネルギー基本計画が掲げる2030年省エネ目標や、国立環境研究所が提示する2050年エネルギー消費量シナリオの削減量と同等の省年エネを本市においても実施すると仮定したのが「省エネ対策後排出量※1」です。
- さらに、既に導入されている再生可能エネルギーや、本市の再生可能エネルギー導入目標を達成したときの排出量が「再生エネ導入後排出量※2」です。
- 市内の再生可能エネルギーでは不足するエネルギーや、非エネルギー起源温室効果ガスなど、削減が難しいものについては、「森林吸収源対策※3」や「他地域からの再生可能エネルギー購入等（小売電気事業者からの再生可能エネルギー電力購入等）※4」での相殺等によって、カーボンニュートラルの実現を目指す必要があります。

- 他地域からの再生エネ購入等とは、水力・風力等、他地域で発電された再生エネ等電力を、小売電気事業者から購入を行うことなど想定したものです。

BAUシナリオ（現状趨勢）とは

- BAUシナリオは、人口や経済などの活動量の変化は見込みつつ、排出削減に向けた追加的な対策を見込まないまま推移した場合の将来の排出量を推計したものです。
- BAUシナリオで推計された将来の排出量が、今後必要となる排出量削減量となり、各年度の目標排出量との差に相当する対策が必要となります。

ひとこと

令和3（2021）年10月22日に、「第6次エネルギー基本計画」が閣議決定されました。エネルギー政策を進める上では、安全性（Safety）を前提とした上で、エネルギーの安定供給（Energy Security）を第一とし、経済効率性の向上（Economic Efficiency）による低コストでのエネルギー供給を実現し、同時に、環境への適合（Environment）を図る、S+3Eの視点が重要であります。

第6次エネルギー基本計画では、

令和2（2020）年10月に表明された「2050年カーボンニュートラル」や令和3（2021）年4月に表明された新たな温室効果ガス排出削減目標の実現に向けたエネルギー政策の道筋を示すこと

気候変動対策を進めながら、日本のエネルギー需給構造が抱える課題の克服に向け、安全性の確保を大前提に安定供給の確保やエネルギーコストの低減に向けた取組を示すこと

上記の2つを重要なテーマとして策定されております。

計画の遂行にあたって「2050年カーボンニュートラル」の実現には、現在の取組の延長では達成できない困難な課題であることへの国民的理解や共通認識のもと、S+3Eの視点により、現実的な方法やプロセスにより進められることが重要であります。

詳しくは高松市
ホームページを
ご覧ください。



高松市 再生エ

検索

Colum コラム



会場の島々へ足を運んでみてはいかがですか？

瀬戸内国際芸術祭2022

3年に一度のアートの祭典、第5回となる「瀬戸内国際芸術祭2022」が4月14日に開幕し、春・夏・秋の3会期に分けて開催されています。

5月18日までの35日間で行われた春会期について実行委員会の発表では、来場者数約22万8千人で、前回の春会期来場者、約38万7千人の6割ほどとなっており。

コロナ禍における開催であるとともに、訪日外国人が不在であることを考慮すると、近隣地域を中心に多くの方に「ご来場いただき、アート作品の鑑賞を通して、美しい瀬戸内海の自然や景観、歴史や文化などをゆっくりと満喫されたものと思います。」

折しも、コロナ禍により近隣への旅行を意味する「マイクロツーリズム」や、穴場スポットへの旅行を意味する「アングラーツーリズム」が定着しておりますので、これを機に、一度会場に足を運んでいただき、自らの住む地域の素晴らしさを再発見してみるのもいいのではないのでしょうか。

大西智



瀬戸内国際芸術祭2019でのボランティア風景

夏会期：
8月5日（金）～9月4日（日）
公式ホームページはコチラ→
瀬戸内国際芸術祭 検索

